



## 子どもの歯はどうして生えかわるの

### おとなの歯に生えかわるのは

子どもの歯は、だれでもいちどぬけて、おとなの歯に生えかわります。子どもの歯の下に、おとなの歯ができてくると、子どもの歯はおし上げられ、ぬけてしましまうのです。

子どもの歯は、生まれて7か月ごろから生えはじめ、3才ごろには20本になりますが、6才くらいになると、生えかわります。なぜでしょう。

赤ちゃんや6才くらいの子どもの頭と、おとなの頭の大きさを比べると、ずい分大きさがちがいます。頭が大きければ、歯の生えているあごも、当然、大きくなります。

歯は、すき間なく、あごの骨に並んでいなければなりません。ところが、小さい子どものときに生えていた小さい歯は、あごが成長して大きくなっても、ほとんど成長しないため、そのままでは、すき間だらけの歯になってしまいます。そのため、おとなのあごの大きさに合わせた、大きな歯に生えかわるのです。また、歯は、いちどしか生えかわりません。

### 子どもの歯とおとなの歯

おとなの歯は、本数も多くなります。子どもの歯は全部で20本ですが、それが生えかわっておとなの歯になると、おく歯が生えてきて、ふつう全部で32本になります。

しかし、中にはいちばんおくに生えてくる、「親知らず」という歯が生えてこない人がいるため、そういう人は28本です。（監修・保志 宏）

